



代表作 / TRY! 利きコーク / コカ・コーラ ゼロ (日本コカ・コーラ)



「地元で恩返しをしたい」「地元では得られない情報を若者に伝えたい」と、地元の人たちと積極的に関わりながらPR動画制作に取り組んでいる

今思うのは、故郷への恩返し。「情報が少ない地方は、子どもたちの進路にとっては大きなハンデ。先輩としての経験や知恵を子どもたちに伝えたい。」
話題化だけでは終わらせない。越智さんの後半戦が始まっている。

何度も見たくなる仕掛けと、西諸弁の面白さ、映画のような映像美で小林市の魅力を伝える「小林市移住促進PRムービー」シタモシタン小林」。立案、企画から制作に至るまでチームを指揮したのは、市出身の越智一仁さん(35)。広告代理店の(株)電通に勤務し、大手企業のCM・企画などを数多く手掛けている。

4本)を受託。移住をテーマとした第1弾で、見事に小林市を話題化させた。「普通、一市町村の作る動画が話題になることは、まずありません。また、時間や予算など、制限の多い仕事でもありました。しかし、西諸弁の言葉選びから、撮影、収録まで、関係者が一つのチームになって取り組むことができました。それで、なんとか乗り越えられたという感じ。出身地の仕事というところもあり、とにかくプレッシャーがすごかったですが(笑)」。

力で取り組むタイプだった。高校の頃に目指していたのは、ミュージシャンのミュージックビデオを作る仕事。しかし大学受験に失敗し浪人。人生について深く考える時期を過ごした。1年後、現役の頃の志望校ではなく、映像の勉強ができる九州芸術工科大学に入学。「自分で決めたからには後には引けない」と、映像制作に打ち込み、仲間たちと議論する毎日を通じた。そんな中、広告の道を志すきっかけとなる1本のCMと出会う。公共広告機構の「黒い絵」。衝撃を受け、感動のあまり涙した。

周りから「絶対に無理」と言われながらも、業界最大手の(株)電通に入社。1年の営業を経て、念願のCMプランナーになった。しかし、待っていたのは挫折。自分の企画は認められず、同期が次々に作品を作ったり、賞を受賞する中、先輩の手伝いをするだけの辛い5年間を過ごした。6年目。ウェブ系の部署への異動を勧められ「このままここにいっても何も変わらない」と異動を決心。新たな舞台がむしゅらに仕事に打ち込んだ。3年後、自分の手がけた作品が、日本初となる国際的賞を受賞。「この仕事についてよかった」と思える瞬間があったと訪れた。

世の中はものすごいスピードで変化している。でも、このまちで育み学んだ情熱や、自分なりの哲学を失くさず、新しいことにガンガンチャレンジし続けていきたい。

「ンダモシタン小林」
クリエイティブ・ディレクター

(株)電通 CDC コミュニケーション・プランナー

おちかずよし 越智一仁

プロフィール / 代表作品等

細野出身。昭和55年1月生。南小、小林中、小林高校を卒業。九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部)画像設計学科・大学院卒業後、(株)電通に入社。コピーライターやCMプランナーを経て、CDCコミュニケーション・プランナーに。これまで、ソニー、キャノン、ホンダ、ドコモ、ネピア、コカ・コーラなどを担当。手がけた作品が国内外で多数受賞。



代表作 / Crisp Concert (グリコ)



代表作 / Tissue Animals (ネピア)